

「インターネット+」が農業に与える影響

大分市武漢市事務所 賈 芳

ここ数年、中国国内では「インターネット+」という言葉が様々な分野で聞かれます。

これは、各種業界（物流や金融、製造業や農業等）に対し、インターネットの活用に関する様々な技術（モバイルインターネットやクラウドシステム、ビッグデータの活用など）の導入を促進し、生産性の向上や業務の効率化を図ろうとするものです。

「インターネット+」の考え方は、2012年11月に易観国際が主催する第5回インターネット博覧会において、その代表取締役である于揚氏が初めて提唱した考え方であり、今年3月の全人代では李克強首相が政府活動報告の中で「『インターネット+』行動計画」を国民に示し、話題となりました。今回は農業と「インターネット+」の関係についてお伝えします。

現在中国では、携帯でインターネットにアクセスするだけで、遠く離れた自分のビニールハウスの様子を確認することができ、水やりや肥料のタイミングを簡単に調べることが出来ます。また、何か欲しい物がある時には、携帯から注文すれば良く、週末旅行に行こうと思えば、ホテルやレストラン、交通機関をネットで予約しておけば、当日、現地で困ることはほとんど無いでしょう。このようなことから、「インターネット+」は農業の生産性を向上させただけでなく、一般市民の生活にも大きな影響を与えていることがわかります。

次に、「インターネット+」を農業に活用するための武漢市の取り組みについてご紹介します。

①データセンターが農業ネットワークの「中心」となる

武漢市は、「1つのデータセンター（ビッグデータセンター）と農業分野における3種の情報処理システム（物流ネットワークの応用システム、生産における管理・調整システム、情報の統合サービスシステム）」をテーマに「インターネット+農業」の公共サービスプラットフォームを構築しました。これらを活用し、武漢市農業と農村の特性や需要の情報を集めるとともに、行政や他の様々な分野の情報を統合して、武漢市の農業生産における情報化を推進しています。

②農業生産や養殖業がインターネットを通してつながる

武漢市は、施設園芸や養殖業の生産情報や販売情報、そして水利施設の情報を、物流ネットワークの応用システムを活用して一元化し、国内最先端の「インターネット+農業」に関するモデル地区を数箇所建設しました。また、今後は、これら以外に小さなモデル地区やプロジェクトを立ち上げ、既存のインターネットセンターや企業の技術センターの技術力に磨きをかけ、開発から研究、実用化まで一体となって、技術革新に向けた体制を構築する予定です。

③近年開発された9割以上の町や村がインターネットビジネスのサービスセンターを活用

武漢市は、企業的農業を行う事業者100社にインターネットビジネスのプラットフォームを導入しました。現在、企業的農業を行う事業者の9割以上がインターネットをビジネスに活用する一方、近年新たに開発された町や村においては、9割以上でインターネットビジネスに関するサービスセンターが設置されています。

現在、インターネットを活用した取引額は900億元（1兆7,036億円）に達しており、在庫管理やラベル・パッケージの作成、低温物流の分野などで活用の輪が広がっています。

④観光客受け入れ体制の動向が農村や観光地の魅力を向上させる

武漢市は、市内全域についての観光情報に関するポータルサイトや農業観光に関するポータルサイト、「スマホの中で武漢体験」という携帯電話サイトを作成しました。今後は、これらのサイトや観光施設の利用状況を調査しながら、「インターネット+農業」のモデル地区や観光スポット、農業体験センターを建設する予定としており、インターネット技術を活用しながら農業生産とインターネットビジネス、ひいては生産者と観光客をつなげていきたいと考えています。

⑤全国に先駆けた品質管理の取り組み

武漢市では、インターネット技術を活用した農産品の品質管理に重点を置いた、トレーサビリティシステムを立ち上げました。これは、農産品の生産過程の把握はもちろんのこと、在庫や流通の状況等を把握できるシステムとなっています。

このシステムを活用するため、武漢市では町や村のレベルでインターネットビジネスに関する総合サービスセンターを設置しており、これは中国国内においても最先端の取組となっています。

⑥インターネットを活用した情報管理

インターネット技術は、今や行政権の執行や財産の取引、災害情報の提供など、自治体が活用するだけのものではなく、原材料等の調達やリモートカメラを活用した農場の状況確認など、幅広い分野で活用されており、主要な農業生産者、漁業者、畜産業者に加え、大手の農業企業や農民科学試験共同組合などでも活用されています。

【「インターネット+農業」の推進に向けた予算措置の状況】

武漢市は農業関連予算の内、ここ3年間で合計2,000万元（3億7,853万円）を「インターネット+農業」の推進のため使用してきました。主な使途としては「ユビキタスネットワークのデモンストレーション費」や「インターネット取引を行う農業企業の育成とインターネットビジネスのためのプラットフォームの構築費」、「各地区においてインターネットビジネスを行うための総合サービスセンターの建設費」などです。なお、市の支出に加え各区の行政機関も予算を確保する予定となっています。

